

## 自己点検・評価について

2022年3月11日実施

### ① 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	全学情報教育運営委員会が中心となり、本プログラムの科目の履修状況を分析し、プログラム修了を目指す学生の状況を把握する。また、プログラム修了を目指す学生が単位を修得できていない科目については、担当教員と情報共有しながら、どのように状況を改善するのかについて協議する。
学修成果	全学情報教育運営委員会が中心となり、本プログラム修了生の成績を分析することで、本プログラムによる学修成果を測ることができる。さらに、本プログラム修了生による資格試験合格などの履歴などを追跡することで学修成果を測る。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>本学では、全科目に対して授業アンケートを実施しており、このアンケートから各科目の学生の内容理解度を把握する。さらに、本プログラムの修了生に対してアンケートを実施し、特に科目の理解度、サポート体制についての満足度などについて調査することで、今後のプログラム運用の参考にする。</p> <p>本プログラムの授業アンケートでは、以下のような学生の意見が寄せられている。</p> <p>【情報と社会(4)(2020年度)】 ・現在の情報技術がどのようになっている、これからどのようになっているのかを知ることができたのでよかったです。</p> <p>【データリテラシーb(2021年度)】 ・とても興味を持つことができました。なぜなら今後私が使っていこうと思うことができたからです。大学の論文で用いるために、データを集め、分類し、整理し、クレンジングすることを自分で少しでもできるようにしたいと思うことができました。</p> <p>【情報通信技術と社会(2021年度)】 ・私自身初めは情報通信技術について全く詳しくなかったのですが、授業を通して情報通信やITについてたくさんの知識を身につけることができました。</p> <p>また、授業担当者が独自で実施している授業アンケートによると「情報と社会(4)」(2021年度)における授業の理解度に関して「授業内容は理解できた」の回答は、「とてもそう思う」が64.7%、「そう思う」が33.6%という結果であった。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	本プログラムの修了生に対してアンケートを実施し、設問項目として後輩学生や他の学生への推薦内容について尋ねる。そして、アンケートの回答内容をプログラムの公式Webや公式SNS等に掲載、発信することで、履修と修了の推進を行う。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	全学情報教育運営委員会が中心となり、プログラムの履修状況の分析を実施し、履修者数や履修率向上に向けた計画を立案し、進捗情報を管理していく。また、履修者数や履修率の向上に向けて、学生への広報を継続的に推進していく。

## 自己点検・評価について

2022年3月11日実施

<p>学外からの視点</p>	
<p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p>	<p>本学はこれまでも、学科を問わず情報サービス分野への就職者が一定数存在する。</p> <p><b>【2020年度学科別 情報サービス分野就職割合】</b>          英語英文学科: 9.9%、国際関係学科: 10.5%、数学科: 26.9%、情報科学科: 38.6%          総合政策学科: 20.2%</p> <p>情報サービス分野では日本国内のみでなく、海外と協同してのプロジェクトが行われることもあり、また、最新の技術に関する情報は英語で記述されたものがほとんどであり、本学卒業生の語学力に期待するという人事担当者の声も多い。</p> <p>今後も、プログラム修了者の卒業後の調査を実施し、その進路や活動状況を確認する。</p>
<p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>全学情報教育点検評価委員会が、産業界および産業界出身者を外部評価委員として委嘱し、定期的に本プログラムについての評価、提言が得られる仕組みを構築する。</p> <p>令和3年(2021年)度は産業界の2名よりプログラムへの評価、提言を受けた。「企業においてデータ分析はツールであり、重要なのはデータ分析を基にした適切な意思決定である。本プログラムではその点を重視されている」とのコメントがあった。また、初学者、経験者とスキルの幅が大きく、初学者へのフォローが必要であること、講義、事例紹介にとどまらず演習やグループワークを導入するなどにより学習効果を高める必要があるといった提言がなされている。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>「情報と社会(4)」や「情報通信技術と社会」などではSociety5.0が実現する社会を具体的にイメージできるよう、事例等を示しながら解説をしている。さらに、レポートとして、具体的な情報技術を示しつつ、近い将来に実現する新たな社会について論じる課題を課すなど、文系学科の学生においても理系分野の学びではなく、文理融合の分野であることを理解できるような内容としている。</p> <p>「データリテラシーb」では、「統計において、高校までは手計算でグラフを書いていたことが、プログラムを数行書くことでグラフ化されることが楽しかった」「確率・統計の導入で視聴率など身近な例が触れられており、楽しかった」などという意見が授業アンケートで寄せられており、身近な例を授業に取り入れることで学ぶ楽しさを伝えている。</p> <p>さらに、プログラムの科目を通じて、データサイエンスの知識が各自の専門分野において、どのように関連するのかについて考え、学ぶ意義が理解できるようにしている。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p>	<p>本学では、全開講科目に対して授業評価アンケートを実施している。このアンケートから学生の内容の理解度を把握することにより、授業内容・水準を維持するとともに、授業改善の必要性等を抽出することができ、さらなる向上を行うことができる。</p> <p>また、全学SD・FD委員会が主催するFD研修会が毎年複数回、実施されており、その中で、「教授法」「わかりやすい授業」「大学カリキュラム論」といったテーマで、定期的な研修を実施する体制を整えている。</p>